

夏号 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL 924-2194 FAX 924-2195

うっとうしい梅雨空が続いています。
それでも植物が、この季節を清楚に、
時には華やかに演出してくれています。
雨の中の緑は一段と濃く鮮やかに映し出します。

傘をさして出かけてみませんか。

きっと、夏に移りゆく風景が見えてきますよ・・・



ねえ！どこに行くの？

水やり

今年の夏は、ラニーニャ現象の影響で日本は猛暑となる予報が出ているので、高温少雨になったら大変と今から案じられます。梅雨明け後は、人間とおなじく暑さになれていないので、根がまだ遠くまで張っていない春先に植え込んだ植物は、尚更弱ってしまいます。ツツジ類は、根が浅いのですぐに萎れてしまいます。水不足は、植物を枯らし弱らせてしまう大きな原因となります。水やりは、**植え込んだ植物の根まで届かないと効果がありません。**あげる時には、たっぷり根本に与え、樹冠にもあげます。そして、また乾燥したらあげます。また、根元近辺を腐葉土などで被っておくと乾燥や雑草を防ぐことができます。鉢植えの場合は、あげた時に鉢底から水が出にくい時は植え替えのサインです。水やりは、**水分そのものと新鮮な酸素を根に届ける役目があります。**肥料は無くとも枯れませんが、**水分と酸素が無ければ枯れてしまいます。**これからの季節は、日中の高温時にはあげてはいけません。朝のうちにあげ、それでも足りないようなら夕方にもあげます。

剪定

樹木は、放っておくと大きくなり過ぎたりと形が乱れて観賞価値がなくなってしまいます。そうならないように剪定が必要になりますが、樹種によって適期があります。樹木は、夏に葉を茂らせるのには理由があり、ひとつは樹木自体を守り、ふたつめは、光合成によって糖を蓄えてやがて来る冬に備えるためにです。それを自分の都合によって強くバツサリと剪定をしてしまうと弱ってしまい、ひどい時には枯れてしまいます。特に猛暑が予想されている今夏は、尚更です。また木を腐らせる腐朽菌がいっぱい空中に漂っていますので切り口から侵入する危険度が高まります。剪定作業を業者に依頼した時にサッパリしたというのは褒め言葉ではありません。良くなったといわれるようなメリハリをつけた作業が大事です。サツキツツジは花が終わりましたので早めに刈り込んで次の花芽が出来るようにします。アジサイも花後には剪定をして芽を伸ばします。その伸びた先端に花芽がつかます。生垣も刈り込むことで小枝を密にする事ができます。

肥料

肥料は花後にあげて芽が伸びるのを助けます。生垣も刈込後にあげます。ただ基本は冬の間にあげる寒肥です。適さない時にあげると軟弱に育つ場合もあり病害虫に対して抵抗力が下がります。緩効性の有機質肥料は失敗も少なく園芸用には向いています。野菜にあげる肥料は成分が高い為に肥料焼けをおこしてしまうこともあります。

植替え

夏季に植替えはせず、9月下旬から常緑樹は可能になります。ただ植え込む時は、土壌を良い状態にします。ポタンの鉢植えは、以前は秋まで待って植え替えをしていましたが、現在はプラスチック鉢に植えてあるのがほとんどなので、開花後すぐに露地に植え込みます。素焼きの鉢などで変わる事例もありますので、参考にしてください。

病害虫

病害虫の付かない植物はありません。この時期は、うどん粉病が特に発生します。ハナミズキやサルズベリなど多くの樹種に発生します。殺菌剤を散布しますが、発病後はその病徴を消し去る事はできません。この病気は、これから梅雨明け後の時期から9月にかけて発生します。夏が猛暑になるとマツ枯れが多く発生しやすくなります。MEP乳剤を散布します。アメリカシロヒトリは2回目、マツカレハも発生があります。病気は予防、害虫は発生初期の防除が大切です。草花にはアセフェート粒剤を植え込む時に混ぜ込んでおくとアブラムシやイモムシに効果がある薬剤もあります。普段から植物をよく観察して異常を早期に見つけます。なるべく薬剤は使いたくありませんが、用いる時にはきちんと使用方法を守ってください。



正常なブルーベリーの樹木



うどん粉病のブルーベリーの樹木



みどりのつばやき



何！これっ??

左記の写真、あれっ！って思いませんか・・・
皆さんは、どんな風に見えますか・・・
人が、木に仮装？
ヘビが、魚に飲み込まれている？
自然って！ ときに面白いですね。
みなさんのまわりにも、あるかもしれませんよ(@_@)

